

近距離恋愛(MADE OF HONOR)

2008(平成20)年5月23日鑑賞(ソニー・ピクチャーズ試写室)

★★★



監督=ポール・ウェイランド/出演=パトリック・デンブシー/ミシェル・モナハン/ケヴィン・マクキッド/キャスリーン・クインラン/シドニー・ポラック(ソニー・ピクチャーズ エンタテインメント配給/2008年アメリカ映画/101分)

……遂にラブコメの世界にも「maid of honor」=花嫁付添い人(映画の原題は『MADE OF HONOR』)が登場! しかも、今回は男の花嫁付添い人というからビックリ! 全く異質の「結婚観」を持つ、水と油のような男女になぜ深い友情が……? 他方、理想的な大富豪との結婚を決めた女が、そんな男を花嫁付添い人に指名したのは一体なぜ……? 意外に純情だった(?)元プレイボーイが、今チャレンジする一発逆転のシナリオは……? そして、意外な結末についてのあなたの賛否は……?

なるほど! うまい邦題を!

「遠くて近きは男女の仲」ということわざがあるが、逆に「灯台もと暗し」ということわざも……?

最近「花嫁付添い人」を主人公とした映画がやたら目立つ。花嫁付添い人という言葉が私をはじめで知ったのは『いつか眠りにつく前に』(07年)を観た時だが、『幸せになるための27のドレス』(08年)の主人公はその極端版……? そして、今回の『近距離恋愛』ではじめて知ったのは、男性の「maid of honor」(花嫁付添い人)(映画の原題は『MADE OF HONOR』)がいるということ。『幸せになるための27のドレス』を観ていると、花嫁付添い人は花嫁の身の回りのすべての世話、したがって式直前のトイレの世話までしていたから、ホントにそんな役割が男性につとまるの……?

この映画の原題は、例によって何とも直截的な『MADE OF HONOR』だが、その邦題は『近距離恋愛』。なるほど、うまい邦題をひねり出したものだ。こりゃ、上記の2つのことわざの見事な融合……?

なぜ結婚式が3回も……？

この映画はやたら結婚式のシーンが多い。「花嫁付添い人」を主人公とした映画では、結婚式のシーンが重要な役割を果たすのは当然だが、なぜかこの映画ではそれが3回も……。もっとも、そのうちの1つは、主人公トム（パトリック・デンプシー）の父親である、結婚と離婚を何度もくり返してきたという変わったキャラのトーマス（シドニー・ポラック）が挙げる6度目の結婚式。

もちろん、この映画のメインとなるのは、トムが花嫁付添い人をつとめる、花嫁ハンナ（ミシェル・モナハン）とスコットランドの大富豪コリン（ケヴィン・マクキッド）との結婚式。ハンナはそんな理想の男性との結婚が決まり、他方、男性ながらトムはハンナの10年来の親友として花嫁付添い人に指名されたのだから、コリンを含めて三方万々歳のはず。それなのに、なぜこの映画では3度目の結婚式が……。しかし、3度目の結婚式は一体誰と誰の結婚式……。それが、この映画の面白いところだが……？

男女間の友情は……？

トムとハンナの出会いは10年前にさかのぼる。プレイボーイであるトムの恋愛ゲームにおけるルールは、「デートは2晩続けない」「女を家族に紹介しない」「もらった電話番号は24時間後にかける」など。そんなプレイボーイでも見た目がグッドなら、女はいくらでも引っかかるらしい。

大学時代の彼は、寮の新入生たちと片っ端からベッドインしていた様子。そして、トムとハンナの出会いは最悪で、他の女の子とまちがえて、トムがハンナのベッドに侵入したというものだから恐れ入る。ところが私がビックリしたのは、そんな男と女の間「正直さ」をキーワードとした揺らぎのない友情が成立したこと。

大学を卒業したトムは、熱いコーヒーカップで火傷しないためにカップにつけるカバー「スリーブ」の発明によって大金持ちになったが、ハンナとの友情はそのまま存続中。しかし、今でもプレイボーイのトムは、父親の影響もあって、「結婚」をハナから信用していない男だ。他方、ハンナは美術館に勤めながら、理想的な結婚を夢見る日々。

こんな2人の友情は永遠かと思われたが、ハンナが名画の買いつけのため6週間の

スコットランドへの出張に出かけていくと、トムの気持の中にある異変が……？

遠く離れてはじめて気づく、あなたへの想い……

「遠く離れてはじめて気づく、あなたへの想い」。これは、いかにも松田聖子作詞・作曲のラブソングの歌詞みたいだが、アメリカの現代青年トムにもそんな歌詞がピッタリだったとは……？

そんなトムを見ていると、プレイボーイというのは彼のホンの一面だけで、根は真面目な、血液型もA型の青年……？ 今やっと彼が気づいたのは、トムにとってハンナは不可欠の女性、ハンナなしの人生なんて考えられない、ということだったが……？

ハンナの選択は当然！

ところが、スコットランドから帰ってきたハンナには、同伴するコリンの姿があったからトムはビックリ。コリンは、スコッチの名門メーカーの御曹司で公爵の称号を持ち、スポーツ万能、そのうえインテリジェントでセクシーというからまさに完璧。ハンナの理想の男性だ。

トムのハンナへの熱い想いを知ったトムの友人たちは、コリンの難点探しを試みたが、いくら資料を調べても残念ながら何ひとつケチのつけどころなし。これではハンナの選択は当然で、トムの敗北は明らかだ。そこで、トムとトムの友人たちが立てた戦略は、花嫁付添い人の仕事をきっちりつとめる中で、ハンナにホントの気持を告白し、コリンからハンナを取り返すというものだが……？

略奪愛、略奪婚は最高だが……？

映画後半の見せ所は、コリンのお城で展開される結婚式に向けたスコットランド式儀式の数々。王侯貴族のしきたりを今なお守っているらしいその姿は圧巻だが、どこまでホントかは私には……？

日本で略奪愛、略奪婚と言われた男の典型は、市村正親を奪った(?)篠原涼子や布袋寅泰を奪った今井美樹らが有名だが、今トムが狙っているのは、花嫁付添い人としての仕事を完璧にこなす中で、コリンからのハンナの略奪愛というきわめて困難なもの。パーティーの中で交わした2人の熱いキスによって、ハンナの中に「ある動

揺」が生まれたのはたしかなようだが、それによって今さらコリンからトムに乗り換えるという決断などできるはずはない。そんなハンナの最終決断を聞いたトムは、遂に花嫁付添い人の任務を続けるのはあまりにもつらすぎるとして、その役目を放棄したのだが、私に言わせればそりゃちょっと無責任。そんな傷心のトムは、今1人帰路に向かったが……。

さあ、ここからクライマックスに向けて、9回裏の逆転サヨナラ満塁ホームランはありうるのだろうか……？ そんな略奪愛、略奪婚が実現すれば最高だが……？

2008(平成20)年5月24日記

ミニコラム

遠距離恋愛では手紙がポイント

東京五輪が開催された1964年に社会現象となったのが『愛と死をみつめて』。①マコとミコの手紙集は160万部の大ヒット、②「マコ甘えてばかりでごめんね、ミコはとっても幸せなの」から始まる青山和子の歌った曲は日本レコード大賞を受賞、そして③当時19歳の吉永小百合が、顔の左半分をガーゼで覆って純愛コンビの浜田光夫を相手に挑んだ静かな熱演に日本中が涙の渦に。

阪大病院入院中のミコと東京の大学に通うマコは「遠距離恋愛」の走り。そこでは手紙がポイントで、46年後の今でも涙なしに読めない名言がいっぱい詰まっている。

その1。私に病院外で健康な日を3日下さい。そうすれば、1日目は故郷へ飛んで帰り、2日目はあなたのとこ

ろへ飛んでいく。ミコはそう書いたが、さて3日目は？ それは、1人で思い出と遊ぶというもの。もしあなたなら、そんな貴重な3日間が与えられれば何をします？

その2。嘘が嫌いなマコに対して病状は大丈夫と嘘をついたミコは、ある日こんな手紙を。それは「貴方に教えてあげたい。人は時に悲しい嘘をつかねばならないことを」。さて、あなたはこれをどう理解？

今ドキの若者たちも携帯メールに頼らず、たまには心を込めた手紙を恋人に書いて送ってみては。そうすれば、より深く自分の気持を分析することができるとともに、恋人とより深い絆で結びつくことができるはず。

2008(平成20)年10月23日記